

幼児文化芸術

2017年7月吉日

第13号

発行:



一般財団法人
幼児文化芸術協会

会員園ご紹介

- 栄光八事幼稚園(天白区)
- 小幡あさひ幼稚園(守山区)
- 志だみ幼稚園(守山区)
- とみよし幼稚園(愛西市)
- 名古屋西幼稚園(西区)
- 鳴海ヶ丘幼稚園(緑区)
- 美里幼稚園(豊田市)

※50音順

ひらめき、きらめき

人間の感覚で最も鈍くなったのは、嗅覚(匂いをかぐ力)だと言います。世の中には、香水はじめ芳香剤、消臭剤など、良い匂いはたくさんありますが、くさい臭いにフタをしたことで生活臭や自然の臭いを体験しなくなったことが要因です。

人間は、目、耳、鼻、口、手の五感もち、五つの入口からの刺激をトータルで受けとって、脳に働きかけ、心を動かして反応、表現する生き物です。動物との大きな違いは、『ことば』を中心に様々な表現ができることです。

便利快適な世の中は、自ずと自然から離れ、本物の体験が減少してきます。くさい臭いだけでなく、様々な実物を肌(五感)で感じ、感性(感じる心)を育てる適期が幼児期です。

本財団では、日本文化や異文化を、一流、本物の講師とともにふれ、思い、思いの表現を楽しむ文化芸術プログラムを約千五百名の園児とともに体験しております。また、毎年三月には、活動のまとめとして、年長児を中心とした『幼児文化芸術祭』を開催し、約千七百名の第九合唱、親子ワルツなどの祭典が行われます。

五感を磨く先は第六感と言われます。感性の極みは『ひらめき』という創造性、オリジナリティーです。会員園のお子様方が様々な文化芸術体験を通して『ひらめき』、美しい心で『きらめき』、立派な日本人、将来の国際人となることを願っております。

(財)幼児文化芸術協会
会長 岡田勝彦

鳴海ヶ丘幼稚園 和楽器の世界



六月の文化芸術体験は和楽器の世界を楽しみました。

尺八奏者の岩田恭彦先生、箏奏者の岩田知恵美先生、杉浦智恵先生によるミニコンサートでは、まず「さくらさくら」が奏でられ、会場があつた。

いう間に雅で高貴な雰囲気にも包まれました。艶やかな箏の音色と、表情豊かな尺八の響きのコラボレーションの素晴らしさは、じつと耳を澄ませて聴いている子どもたちの表情からも見て取れました。その他、子どもたちの大好きな「さんぽ」や「小さな世界」も演奏してくださり、大変盛り上がりました。また、めぐみおねえさんの読み聞かせでは、民話の語りにも尺八の音色が随所に入り、お話の世界が更に味わい深いものになっていたのが印象的でした。

楽器と触れ合う時間は、箏に関するクイズをしたり、箏爪を付けて箏を鳴らす体験をさせていただきました。弦を箏爪で真剣と鳴らすとカッコいいよね。」と興奮気味に感想を言い合う様子も見られ、和楽器の音色を子どもたちが楽しみ味わうことが出来たと実感しました。



名古屋西幼稚園 言葉と音楽に親しもう

六月十五日は、文化芸術体験教室がありました。今回のテーマは、「ドイツ言葉と音楽に親しもう」です。

はじめに司会のノムノムが「ドイツに行つたことある人？」と質問すると、きく(年少)組のほとんどのお友だちが元気よく「はいー」と手を挙げ、ノムノムもビックリ！さすがにききよう(年長)組のお友だちの時は、二、三人でした。が…(笑)。その後、講師の方からドイツの童話や歌、音楽家、自動車などの話題に触れながら、国旗や場所をみんな確認しました。

ドイツ語での挨拶や数の教え方を教えてもらったり、みんなが知っている「キューピー三分クッキング」でおなじみの「おもちゃの兵隊」のクラリネット演奏を聴いたりしました。また、童謡「フンブン」や「カッコウ」をききつねをドイツ語で聴き、これらの童謡がドイツ語だったことに園児たちも不思議そうな表情で聴いていました。

最後に、ベートーベンの第九「歓びの歌」では声楽家の方による歌唱もあり、その素晴らしい歌声に園児たちも静かに聴き入っていました。

園児たちは、今日の体験教室を通してドイツという国を理解すると共に親しみを感ずることができたようです。



Information

第5回 夏季保育者研修会

今年度は、8/7に開催します。
保育者の皆さんが集まり、文化芸術に親しむ体験プログラムを実践し、幼児教育のレベルアップを目指します。



第5回幼児文化芸術祭開催!

「幼児第九」を発表しました♪

平成29年3月26日(日)、愛知県長久手市の「愛・地球博記念公園」(通称:モリコロパーク)の地球市民交流センター体育館において、「第5回 幼児文化芸術祭」を行いました。当日は、幼稚園8ヶ園の年長児400人、市民合唱団、各園のママさんコーラス総勢500人がステージに立ちました。客席の家族も一緒に歌い、体育館は歌声で満ちました。



昨年度の風景

